

令和元年度

授業シラバス・年間指導計画

国語(3年)

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	現代文B (L・R)	2	普通科・ 理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	習熟度別	国語科		

教科書（発行所）	「新探求現代文B」（桐原書店）
教科書以外の教材（発行所）	新版三カラー版新国語便覧」（第一学習社） 「評論速読トレーニング1000」（数研出版） 「漢字マイスター頻出漢字熟語3000」（第一学習社） 「マーク式問題集」（予定） 「記述式問題集」（予定）

目 標	近代以降の様々な文章を読み、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1. 評論 ・文章の論理展開の構造を把握し、その構造を読み解くことから筆者の主張を理解する。 ・自己と世界（社会）を取り巻く関係について意識的に考え、扱われている問題を自分の問題として捉えて筆者の洞察をふまえながら自分なりの見解を持つようにする。 2. 小説 ・優れた描写、効果的な表現について学んで言語感覚を磨き、想像力や感受性を豊かにする。 ・小説の構造・展開・主題の把握など小説を読む基本的な方法を学んで内容を理解し、その主題を自己の問題として捉え、新しい発見をしてゆく。 ・小説の虚構を通じて生の真実や人間の生き方について考える態度を養う。 ・場面の展開に即して作中人物の性格や心理を読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。 ・積極的に読書を通して人生への関心を深め、自己の形成に資する態度を養う。 3 問題演習 ・論理的文章の特徴を理解することによって、その理論展開と論旨を正確に理解する。適切な表現で、過不足なく答えを作る。 ・筆者の個性、論理性、文学史など関連事項を有機的に結びつけ、発展的にとらえる。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、漢字問題集や教材プリントなどから出題する。	
	範囲	1回考査	『である』ことと『する』こと」
		2回考査	『物語』としての伝統 「博物館というメディア」 「愛のサーカス」 「沙魚」
		3回考査	「市民社会化する家族」「ポストモダンと排除社会」 「支配の役割」 「入試問題演習（問題集・プリント）」
		4回考査	「入試問題演習（問題集・プリント）」
評価の観点 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○具体的な評価は、授業中での考察・ノート・課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	予習で、教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書等で確かめ、ノートに整理する。また「学習の手引き」等を考え、理解出来ない箇所を質問としてまとめる。授業中の要点・板書事項をノートに書き写す。他の生徒の発言にも注意しつつ、予習の疑問点の答えを整理する（赤字で訂正）。復習として、その日のうちに再度教科書・ノートを確かめ、100字でまとめ、単元の最後は200字でまとめ、考えを深める。その上で、疑問点が解明されたか確認する。 なお、課題として配布している問題集は、自分の力で解答した上で解答と照らし合わせ、その際に解説をよく読み、理解を深めることが大切である。		

年間授業計画表			
学期	月	学習内容	学習のポイント
前期	4	『である』ことと『する』こと	9 ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取る能力を習得する。
	5	『物語』としての伝統	2 ・文章の構成を確認し、表現の特色をとらえる。
	6	<1回考査> 「博物館というメディア」	2 ・論理的文章を支える言葉を読み取る。接続表現や指示表現など評論文を読むための注意点に気づく。
	7	「愛のサーカス」	8 ・作中人物の行動・心理・性格を深く読み取り、作者のものの見方・感じ方を的確に理解し、自己のあり方や生き方について考える。
	8	「沙魚」	9
	9	<2回考査> 「市民社会化する家族」	9 ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取る能力を習得する。
	10	「ポストモダンと排除社会」	8 ・文章の論理的展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につける。
	後期	「支配の役割」	8
		「入試問題演習（問題集・プリント）」	4 ・構成・展開を正しくとらえ、言語の使い方の特徴を知り、筆者の述べる内容についての考えを深める。
		<3回考査> 「入試問題演習（問題集・プリント）」	19 ・例を的確に読み取り、筆者の主張へと集約させる読解方法を習得する。
後期	11		・読解のポイントをつかみながら解答するとともに、適切な表現で、過不足なく答えを作る。
	12 1	<4回考査>	・全体の構成を把握し、論の展開に即して正確に内容を読み取る。
総時間数		78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	古典B（L古文・R古文）	2	普通科 理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
全	習熟度別授業	国語科		

教科書（発行所）	高等学校 古典B 古文編（三省堂）
教科書以外の教材 （発行所）	「基礎から解釈へ 新しい古典文法 四訂新版」（桐原書店） 「新版三訂 カラー版新国語便覧」（第一学習社） 「読んで見て覚える 重要古文単語315」（桐原書店） 演習用問題集「ニューグレード古文 読解Ⅲ」（桐原書店）

目 標	古典としての古文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1 物語（一） 古典を代表する長編物語である『源氏物語』の世界に触れるとともに、時代を超えた人間の真実を読み味わって、古典に親しむ態度を養う。 2 物語（二） さまざまな物語作品を読むことで、古典の面白さにふれるとともに、古典世界の豊かな想像力・創造力を読み味わって、古典に親しむ態度を養う。 3 評論 代表的な評論作品を読むことによって、評論の伝統にふれるとともに、和歌や物語についてのさまざまな見方、感じ方、考え方を理解し、古典に親しむ態度を養う。 4 日記 平安時代の女流日記を二編読むことで、時代の背景知識や女性たちの生活ぶりに理解を深め、さまざまなものの見方・感じ方を読み味わって、古典に親しむ態度を養う。 5 問題演習 入試に必要な力を養うことを目的として、問題演習に取り組む。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、便覧、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 （予定）	1 回 考 査	『源氏物語』ほか
		2 回 考 査	『源氏物語』『大鏡』ほか
		3 回 考 査	「評論」「日記」ほか
		4 回 考 査	問題演習
評価の観点	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識理解」の3項目とする。		
評価の方法	○具体的な評価は定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。全体の評価は、古文・漢文を総合したものである。		
先生から アドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など）	予習・授業・復習を確実に行うことが大切である。予習として本文を読み、重要語句を調べ、口語訳をつけてくることが必須条件である。調べてもわからない点については、授業で特に気をつけて学習し、授業で学んだことはできる限りその場で覚えるという姿勢を持つこと。その上で、復習を繰り返すことが肝要である。文法事項のほとんどはすでに学習しているので、基礎基本を繰り返し復習し、定着を図ることが大切である。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	物語一	「北山の垣間見」 「心づくしの秋風」 《1回考査》 「明石の君の苦悩」	1 8	・長編物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情について読み味わう。 ・日本を代表する名著である『源氏物語』の作品世界を理解する。 ・助詞や助動詞、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。
	5				
	6	物語二	「東風吹かば」 「宣耀殿の女御」 「三舟の才」	1 6	・歴史物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心理を読み取る。 ・敬語について理解し、口語訳に適切にいかす。 ・様々な登場人物に対して語り手がどのような感情を抱き、どのような視点から描こうとしているのかを考える。
	7	評論	『無名抄』 《2回考査》 『古今和歌集仮名序』 『源氏物語玉の小櫛』	1 2	・評論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・和歌に対する古人のものの見方・感じ方の特色を知る。 ・古人の書いた評論にふれることで、和歌や物語について、新しい視点から読み
	8 9				
後 期	10	日記	『蜻蛉日記』 『紫式部日記』 《3回考査》	1 0	・平安時代の貴族女性の結婚生活における愛と苦悩を読み取る。 ・女房として宮廷に使える女性の日記を読み、筆者がどのように物事を見ているのか考える。
	11				
	12	問題演習	問題演習 《4回考査》	2 2	・語句や文法事項、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。
	1		問題演習		
総 時 間 数				7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	古典B（古典B L）	1	普通科 （文系選択）	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	習熟度別授業	国語科		

教科書（発行所）	「高等学校古典B古文編」（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「古典読解問題—基礎編」（駿台文庫）、「基礎から解釈へ新しい古典文法四訂新版」（桐原書店）、「重要古文単語315」（桐原書店） 「精選漢文」（尚文出版）

目 標	古典に親しむことによって、古文漢文の基礎を確実に身につけさせるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げる態度を育てる。また、古典作品に対する関心を深め、国語力の向上を図るとともに、問題演習を重ねることによって、大学入試に対応できる力を養成する。		
学習のねらい	・既習の文法事項への理解を深める。 ・作品の特性を理解し、読解に生かす。 ・叙述に即して作品の内容を的確に捉える。 ・作品の読解を通して、その時代に生きた人々の生活・思想・心情を理解する。		
定期考査	出題方針	問題集の内容を中心に、課題などからも出題する。	
	範 囲 （予定）	2 回考査	「しみのすみか物語」「蜻蛉日記」「今物語」など
		4 回考査	「沙石集」「枕草子」「韓非子」など
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考査を中心に、授業の中での考察・小テスト・課題・ノート提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○繰り返し音読する。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳をしてくること。 ・調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。 ・授業で学んだことをできる限りその場で覚え、重要句法・語法については、繰り返し復習をすること。 ○読解力養成のためには多くの作品を読むことが必須となる。課題の問題集等を有効に活用すること。		

年 間 授 業 計 画 表						
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント	
前 期	4	読本	「しみのすみか物語」	2	・各教材について、主体的・発展的に取り組む。 ・叙述に即して、文章の内容を的確に捉える。 ・様々な文章に触れ、それぞれの文章表現の特色を理解する。 ・作品の特性を理解して、作品の構成・展開や内容を読み取る。 ・作品の成立背景を知り、登場人物の生活や思想・心情を理解する。 ・和歌の修辞技巧を理解し、適切に解釈する。 ・和歌の教養をふまえた機知のおもしろさを理解する。 ・問題演習に取り組むことによって、読解力を伸ばす。 ・助詞や助動詞、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。 ・既習の文法事項への理解を深める。 ・文法について理解し、口語訳に適切に生かす。 ・重要古語を確認し、訳を正しく身につける。 ・漢文に慣れ、句法に従って読解できる。	
		日記	「蜻蛉日記」	2		
	5	説話	「今物語」	2		
		説話	「十訓抄」	2		
	6	歴史物語	「大鏡」	2		
		随筆	「徒然草」	2		
	7	軍記物語	「義経記」	2		
		歌物語	「平中物語」	2		
		歌物語	「伊勢物語」	2		
	<2回考査>					
	8	歌論	「俊頼髓脳」	2		
	9	説話	「沙石集」	2		
後 期	10	随筆	「枕草子」	2		
		物語	「源氏物語」	2		
	11	文書	「許六別離の詞」	2		
		思想	「韓非子」	2		
		小説	「世説新語」	2		
	12	説話	「説苑」	2		
		<4回考査>				
	3	説話	「戦国策」	2		
		雑記	「五雑俎」	2		
		説話	「説苑」	1		
	<年度末評価>					
	総時間数					39

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国 語	古典B（古典B・R）	1	普通科 (文系選択)	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選 択	習熟度別授業	国語科		

教科書（発行所）	古典B 古文編（三省堂） 古典B 漢文編（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「古典読解問題（標準編）」（駿台文庫） 「基礎から解釈へ新しい古典文法」（桐原書店） 「精選漢文」（尚文出版）「重要古文単語315」（桐原書店）

目 標	古典に親しむことによって、古文漢文の基礎を確実に身につけさせるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げる態度を育てる。また、古典作品に対する関心を深め、国語力の向上を図るとともに、問題演習を重ねることによって、大学入試に対応できる力を養成する。		
学習のねらい	・既習の文法事項への理解を深める。 ・作品の特性を理解し、読解に生かす。 ・叙述に即して作品の内容を的確に捉える。 ・作品の読解を通して、その時代に生きた人々の生活・思想・心情を理解する。		
定期考査	出題方針	問題集の内容を中心に、課題などからも出題する。	
	範 囲 (予定)	2 回考査	「伊勢物語」「大鏡」「紫式部日記」など
		4 回考査	「明道雑誌」「世説新語」「漢書」など
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考査を中心に、授業の中での考察・課題・ノート提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	○繰り返し音読する。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳をしてくること。 ・調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。 ・授業で学んだことをできる限りその場で覚え、重要句法・語法については、繰り返し復習をすること。 ○読解力養成のためには多くの作品を読むことが必須となる。課題の問題集等を有効に活用すること。		

年 間 授 業 計 画 表						
期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント	
前 期	4	物語	「伊勢物語」	2	・各教材について、主体的・発展的に取り組む。 ・叙述に即して、文章の内容を的確に捉える。 ・様々な文章に触れ、それぞれの文章表現の特色を理解する。 ・作品の特性を理解して、作品の構成・展開や内容を読み取る。 ・作品の成立背景を知り、登場人物の生活や思想・心情を理解する。 ・和歌の修辞技巧を理解し、適切に解釈する。 ・和歌の教養をふまえた機知のおもしろさを理解する。 ・問題演習に取り組むことによって、読解力を伸ばす。 ・助詞や助動詞、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。 ・既習の文法事項への理解を深める。 ・文法について理解し、口語訳に適切に生かす。 ・重要古語を確認し、訳を正しく身につける。 ・漢文に慣れ、句法に従って読解できる。	
		物語	「大鏡」	2		
	5	日記	「紫式部日記」	2		
		説話	「古今著聞集」	2		
	6	歌論	「袋草紙」	2		
		随筆	「玉勝間」	2		
	7	俳文	「永代橋の墜落」	2		
		日記	「打出の浜の日記」	2		
		随筆	「枕草子」	2		
	<2回考査>					
	8	説話	「宇治拾遺物語」	2		
	9	説話	「発心集」	2		
後 期	10	日記	「蜻蛉日記」	2		
		歌集	「建礼門院右京の大夫集」	2		
	11	物語	「源氏物語」	2		
		物語	「狭衣物語」	2		
		随筆	「明道雑誌」	2		
	12	逸話	「世説新語」	2		
		<4回考査>				
	3	歴史	「漢書」	2		
		評論	「図画見聞志」	2		
		思想	「韓非子」	1		
		<年度末評価>				
総時間数			39			

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	古典（漢文L・漢文R）	1	普通・理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
全	習熟度別授業	国語科		

教科書（発行所）	「高等学校古典B 漢文編」（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「新版三訂 カラー版新国語便覧」（第一学習社） 「精選漢文」（尚文出版）

目 標	古典としての漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1 小話 ・漢文に親しみ、内容を読み取ろうとする態度を身につける。 ・文章中にある比喩の対象を読み取り、主張の内容を理解する。 2 史伝 ・語られる事件の展開を把握し、登場人物の言動や心情について理解する。 ・歴史的エピソードを描く様々な作品に触れ、歴史的人物像の面白さを味わう。 3 小説 ・正確な本文の読解を基に、起伏に富んだストーリー展開の面白みを味わう。 ・登場人物や描かれた時代の人々のものの見方・感じ方について理解する。 4 思想 ・簡潔な表現や巧みな比喩に注目しながら、内容を的確に読み取る。 ・個々の相違を意識しながら、それぞれの思想家の主張を理解する。 5 問題演習 ・さまざまなジャンルに属する文章に読み慣れることによって、漢文表現全般への理解力や読解力を総合的に高め、入試に必要な力を養う。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、適宜、課題（参考書など）からも出題する。	
	範 囲 （予定）	1回考査	「孟母断機」他
		2回考査	「乱世之姦雄」他
		3回考査	「人面桃花」他
		4回考査	「出藍誉」「胡蝶之夢」他
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。評価は、古文・漢文を総合して「古典B」として行う。		
アドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノ ートの取り方など）	○しっかり音読すること。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習の際の疑問点を、授業で解明するつもりで臨む。 ○重要句法・語法については、完璧を期して繰り返し復習をする。 ○後期から本格的な入試問題演習に入る。		

年 間 授 業 計 画 表					
期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	小 話	「孟母断機」 「不死之薬」 「江南橋為江北枳」 ＜1回考查＞	6	・ 漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・ 文章表現や論理の展開、作者の意図や心情について、話の展開に即して読みとる。 ・ 漢文特有の語法や句法に留意し、口語訳をする。 ・ 文章中にある比喩の対象を読み取り、主張の内容を理解する。
	5				
	6	史 伝	「乱世之姦雄」 「三往乃見」 「完璧帰趙」 ＜2回考查＞	8	・ 漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・ 文章表現や論理の展開、作者の意図や心情について、話の展開に即して読みとる。 ・ 漢文特有の語法や句法に留意し、口語訳する。 ・ 作品の背景を知り、主題を考える。
	7				
期	8	小 説	「人面桃花」 「三夢記」 ＜3回考查＞	8	・ 漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・ 登場人物の関係を把握し、それぞれの行動とその意図、心情について、話の展開に即して読みとる。 ・ 漢文特有の語法や句法に留意し、口語訳する。 ・ 正確な本文の読解を基に、起伏に富んだストーリー展開の面白みを味わう。
	9				
後 期	10	思 想	孟子「何必曰利」 荀子「出藍誉」 莊子「胡蝶之夢」 韓非子「聖人不期修古」 ＜4回考查＞	9	・ 漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・ 漢文特有の語法や句法に留意し、口語訳する。 ・ 話や論理の展開、出来事と出来事の因果関係などを正確に把握する。 ・ 個々の相違を意識しながら、それぞれの思想家の主張を理解する。
	11				
	12				
期	1		問題演習 ＜年度末評価＞	8	・ 問題集を利用し、演習を重ねることにより、センター試験などに対応できる力を養成する。
			総時間数	39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国 語	評論研究	1	普通科	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選択	一 斉 授 業	国語科		

教科書（発行所）	「テーマ詳説 現代評論選」（数研出版編集部）
教科書以外の教材（発行所）	「テーマ詳説 現代評論選準拠ノート」（数研出版編集部） 学習補助プリント（指導者作成）

目 標	評論文を読むことを通して、構成や主題をとらえ筆者の主張を的確に理解する能力を養い、自己のものの考え方やとらえ方を深め、論理的に表現できる力を養う。		
学習のねらい	1 現代評論を読んで行く上で欠かせないさまざまな抽象語彙や評論文類出の用語、分野ごとの術語（テクニカルターム）について、その意味や背景的知識を身に付ける。 2 さまざまなテーマごとに現代の評論がどのような問題を どのような視点から取り上げ、どのような論じ方をしているのか、その特徴・傾向について理解する。 3 文章ごとの構成や論旨を的確につかみ、文章全体を、問題提起、具体例、論証、主張、結論の各部に区別しつつ読解して行く力を養う。 4 さまざまな分野で現代という時代が直面している問題や課題の内容を理解し、その解決に向けて何をどのように考えていけばよいのか、思考の方法を身に付ける。 5 さのざまな評論文を読んで自分が理解したこと、考えたこと等を論理的に表現し記述する能力を養う。		
定 期 考 査	出題	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 （予定）	2 回 考 査	* 授業時間内で実施する。 未読のオリジナルの記述式問題を出題する。
		4 回 考 査	* 授業時間内で実施する。 未読のオリジナルの記述式問題を出題する。
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○ 具体的な評価は、授業の中での発表、課題提出および定期考査などを資料として総合的に行う。		
先生からの アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	一つ一つの文章を授業で細かく読むことはしない。従って次のような学習を心がけてもらいたい。 ① 文章を家庭で各自熟読する→準拠ノートを用いて。 ② 不明の語句の意味を調べる。 ③ 各段落の要旨のまとめを考える。 ④ 基礎的な設問を解く。 ⑤ 記述式の問いに対する自分の答えを書くことで、文章上の要点を理解する。 ⑥ 授業による答え合わせや解説を聞くことで、文章の構成や論旨、主張等について理解を深める。 ⑦ 筆者の論述内容について各自の意見をまとめる。時には準拠ノートを提出して添削指導を受ける。		

年 間 授 業 計 画 表					
期	月	転	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	言語	「言語学とは何か」	3	1 評論読解の基礎となるさまざまな語彙、用語、術語等を理解する。
	5	科学	「活字中毒患者は電子書籍で本を読むか」	3	
	6	情報	「なんとなく、日本人」	3	
	7	社会	「社会に生きる科学」	3	2 それぞれの評論に対して、取り上げられた問題点や論じ方の特徴について理解する。
	8	国際	「群衆の生成と消滅」	3	
	9	社会	「美学への招待」	3	
後 期	10	文化	「近代化と世間」	3	3 文章を問題提起、具体例、論証、主張、結論などの各部に区分しつつ、文章全体の構成や論旨をとらえる。
	11	思想	《2回考査》	3	
	12	文学	「安楽への隷属を拒め」	3	
	1	総合	「集団への個の解体」	2	4 それぞれの評論から、それぞれの分野の今日的課題を見だし、課題を追求していくための論理の思考の方法を身に付ける。
	2		「想像力」	3	
			「終わりなき差異化と模倣の反復」	3	
期	1		「日本語の国際性」	3	5 それぞれの評論文に対する理解や自らの考えを論理的に表現する。
	2		「メディアと倫理」	3	
	3		「文明の矛盾」	3	
期	4		「グローバリズムとニヒリズム」	3	《4回考査》
	5		「感性は感動しない」	3	
	6		「千利休と蹲るということ」	4	
期	7		「顔の現象学」	4	* 以下、投込み教材
	8		「日本の反知性主義」他	4	
	9			4	
総時間数				78	